

地域医療連携だより

えん

発行日：令和6年12月 発行所：富山赤十字病院 富山市牛島本町2丁目1番58 TEL. 433-2492 発行責任者：時光 善温

## 歯周炎と糖尿病の深いかわり

歯科口腔外科部副部長 石戸 克尚

歯周炎と糖尿病とのかかわりをご存知でしょうか？

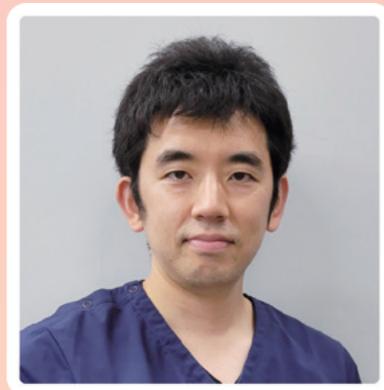
糖尿病はご存知の通り、インスリンが十分に働かないために血糖値が上昇してさまざまな全身症状を呈する病気です。神経障害、網膜症、腎症が3大合併症と言われており、糖尿病と診断されるとこれらの合併症の有無の評価、コントロールを行うことが多いと思います。

一方で歯周炎は、歯周病原菌によって引き起こされる、慢性炎症性疾患であり、現在では30歳代の方でも70%が歯周炎と言われています。近年ではう蝕の罹患率が減り、歯周炎が増加していると言われています。歯周炎は糖尿病と同様に、無症状で進行し、悪化することで歯ぐきの腫れ、痛みが生じるようになります。さらに悪化すると歯の動揺を生じるようになり、自然に歯が脱落していき、食事摂取も困難になる、という病態です。

では歯周炎と糖尿病はどのように関連するのでしょうか？まず、歯周炎は慢性炎症であるため、微細な炎症によって刺激され、血糖値の上昇を引き起こすと言われています。さらに、歯の動揺、歯肉の腫れなどによって痛みが生じることで、しっかりと噛まないで丸飲みになったり、歯の脱落でうまく噛めなかったりすることで血糖値の急激な上昇を引き起こすようになります。さらに、歯周炎が進行すると動脈硬化が進行し、脳梗塞や心筋梗塞のリスクが上昇することも知られており、糖尿病の合併症の悪化にもつながることがわかってきました。そのため、最近では歯周炎が糖尿病の第4、第5の合併症、とも言われるようになってきました。

これらの理由から、糖尿病の患者さんにおいては特に、歯周炎の治療が重要です。歯周炎のコントロールを開始すると、糖尿病の状態も改善したり、悪化が予防できることも示されてきています。実際に当科でも糖尿病の患者さんで、定期的な口腔ケアを行うようになって、血糖コントロールが安定してきた、という患者さんが多くみられています。

糖尿病の患者さんの多くは定期的な歯科受診がなかったり、口腔衛生状態が悪い患者さんが多い傾向にあります。まずは今の口腔内の状態を知るところから始めてみてください。そして一度歯科受診をご検討いただければと思います。



# 入院患者さんの栄養管理について

栄養課 仲町 恵里花

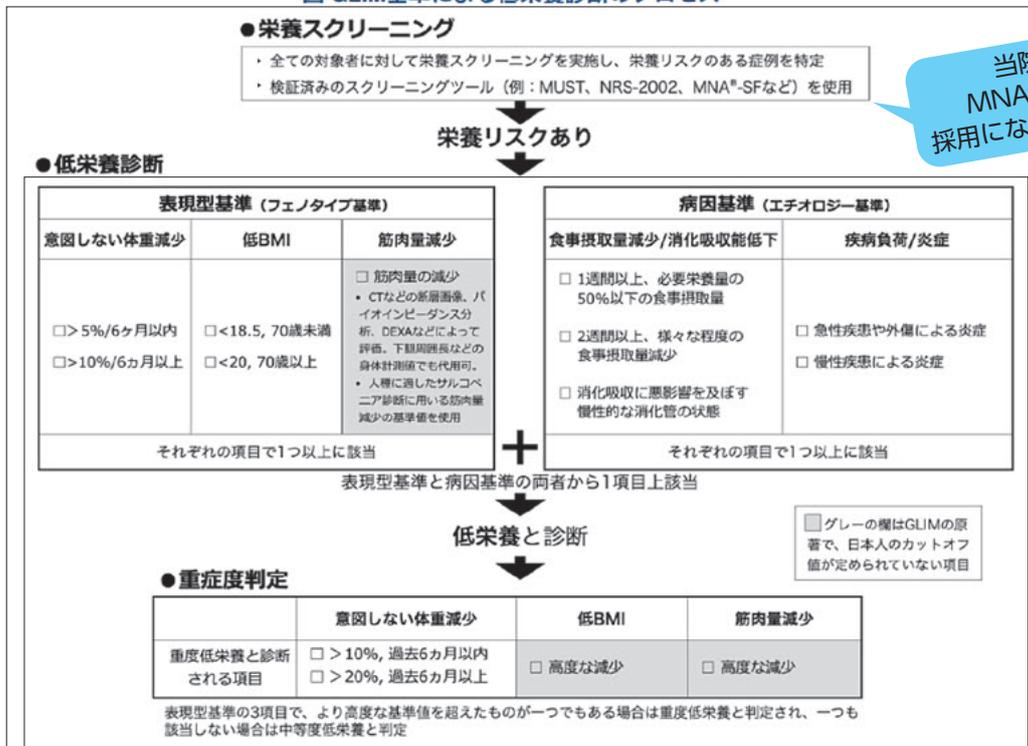
入院患者さんの低栄養を評価する方法として、新しく「GLIM基準」が導入されましたのでご紹介します。

「Global Leadership Initiative on Malnutrition (GLIM)」は、世界の主要な栄養学関連学会が協力して開発した、世界的に一貫した栄養状態の評価方法です。低栄養は、病院の入院患者や外来患者、高齢者施設の入所者など、世界中の様々な療養環境にいる人々に悪影響を与えます。低栄養によって引き起こされる治療効果の低下や合併症リスクの増加は、臨床アウトカムの悪化と密接に関連しています。このため、医療機関では低栄養対策が重要な課題となっています。しかし、国際的な低栄養診断基準は定まっておらず、国や地域による基準の差異は、国際的な低栄養対策の研究や協力を支障を来してきました。GLIM基準は、これらの問題を解決するために開発されました。この基準により、世界的に一貫した栄養状態の評価が可能となり、より効果的な栄養治療が提供されることが期待されています。

低栄養評価のプロセスは2段階に分かれます。まず、入院時に全ての患者さんにMNA-SFを使用して栄養スクリーニングを行い、低栄養リスクがある患者さんを拾い出します。次に、体重減少やBMI、下腿周囲長による筋肉量、食事摂取量、炎症を用いて低栄養の程度を評価します。

低栄養の患者さんには、病棟の管理栄養士が食事内容の提案をさせていただきます。また、栄養サポートチームが栄養の知識と専門性をいかして、医師、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、管理栄養士が共同して栄養プランを提案、栄養状態の維持・改善を目指した支援を行っています。

図 GLIM基準による低栄養診断のプロセス



略語 MUST, Malnutrition Universal Screening Tool; NRS-2002, Nutritional Risk Screening 2002; MNA®-SF, Mini Nutritional Assessment Short-Form; BMI, body mass index; DEXA, Dual energy X-ray Absorptiometry

参考文献 Cederholm T, et al. GLIM criteria for the diagnosis of malnutrition - A consensus report from the global clinical nutrition community. Clinical Nutrition 2019; 38:1-9. <https://doi.org/10.1016/j.clnu.2018.08.002>

日本臨床栄養代謝学会 GLIMワーキンググループ 作成 (2024.3.22 改訂版)

出典：JSPEN日本臨床栄養代謝学会ホームページ

# 奥能登豪雨災害におけるこころのケア班の活動

研修センター看護師長 森田 礼子

9月20日から同月23日にかけて石川県能登半島で豪雨災害が発生しました。10月15日より3日間、こころのケア班として看護師3名、主事2名で活動を行いました。活動の主なミッションは輪島市役所からの要請で避難所の巡回、また市役所職員へのリフレッシュルームの運営でした。初日は輪島市役所門前支所へ到着し、輪島市門前町の公民館や小学校の避難所で活動を行いました。ある若い男性は同じような年代がおらず、引きこもっていることが多い状況で持病のてんかん発作が頻回であり、両親が心配する姿がありました。こころのケア要員とゲームなどの会話が弾み、久しぶりに笑顔を見せる息子の姿に涙ぐむ母親の姿がみられました。こころのケアではPFA（心理的応急処置）の3つの活動、「みる」「きく」「つなぐ」を行います。安心感を高めること、周囲との繋がりを促進し、希望をつなぐことが基本です。認知症が進行し、不安に思う家族や、洗濯場所の利用時間が短く困っている、またなかなか入浴してくれない被災者に対し助けてほしいと訴える避難所の職員もいました。要観察の必要性をアセスメントし、石川県こころのケアセンターの職員と共に、それぞれの活動状況を輪島市役所の保健師と共有し、今後の支援を輪島市で行うことに繋げていきました。



市役所の職員への支援は、16時から18時30分まで市役所の一部屋をお借りし、リフレッシュルームで活動を行いました。優しい香りのハンドクリームを用い、ハンドマッサージを行うと、被災の状況や今現在の家族との生活について話す職員の方や、うっとりとして眠ってしまう方もおられました。短い時間ではありますが、少しでもゆったりと温かい時間を過ごしていただけたらと活動を行いました。

被災地では1月1日の地震災害の爪痕が残っており、道路の段差や亀裂、建物が倒壊、火災の跡など、まだまだ復旧が出来ていない状況です。追い打ちをかけるように水害があり「6月にやっと家に戻れて生活し始めたのに、今度は丸ごと流されて、本当に何もなくなりました。」と語りながらも、「いつも皆さんに助けてもらって、本当にありがとう。」と笑顔を見せてくださる姿に、胸がつまる思いでした。

最後に、これから冬を目前に積雪や寒さに対し不安を吐露する方も多く、被災地の今後の安全と一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



骨折治療の経過についての相談



癒やしのハンドマッサージ

# 世界糖尿病デー

糖尿病療養指導士 田嶋 良裕

11月14日は世界糖尿病デーです。IDF（国際糖尿病連合）とWHO（世界保健機関）が糖尿病抑制に向けたキャンペーンを推進しており、世界でも有数の疾患啓蒙の日となっています。日本でも全国各地で糖尿病の啓蒙活動が行われ、当院でも2010年から毎年、糖尿病のイベントを行っています。

今年のテーマを「災害発生時の糖尿病との付き合い方」とし、地震、台風などの自然災害が発生したときに注意してほしいことや、避難所生活で注意してほしい食事・運動・内服についてのポスター展示を行いました。また看護師による血糖測定・健康相談、管理栄養士による栄養相談の他に、医師による

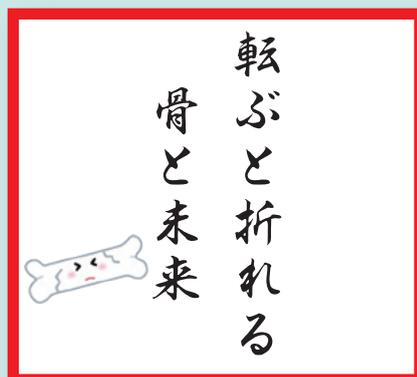
健康相談も行いました。健康相談を目的に参加された方もおられ、参加者からは「専門家と話せる機会がなかなか無く、ありがたいです。」「非常に助かりました。」といった感想がありました。日本は外国に比べ、地震、台風、大雨、大雪、洪水、土砂災害などの自然災害が発生しやすい国です。今回のイベントポスターを見た参加者が、もしもの時の備えを考える機会となったら幸いです。



# 医療安全推進月間

医療安全推進室 看護師長 石田 美幸

厚生労働省では、「患者の安全を守るための共同行動」の一環として、医療安全対策の普及および啓発活動を全国的に実施しています。11月1日から11月30日までの「医療安全推進月間」に、当院では3つの啓発活動を行いました。1つ目は、全職員が医療安全推進バッチを着用し、患者さんにフルネーム、生年月日を名乗ってもらう安全対策を推進しました。2つ目は、転倒転落防止のためロコモティブシンドロームの動画を提示しました。また転倒予防の標語を職員に募集し、採用された標語はデジタルサイネージで表示しました。3つ目は、職員対象に外部講師による講演を開催し、コミュニケーションエラーの要因やコミュニケーションエラーを防ぐ工夫を具体的に学びました。医療安全推進月間だけに限らず、日々安全活動を実践していきたいと思えます。



# 季節を感じて過ごす緩和治療病棟

緩和治療病棟 看護師長 山本 百合



緩和治療病棟では、ご家族の方と心に残る時間を過ごせるよう、季節を楽しむ行事を行っております。春はお花見、夏は夏祭り、秋にはハロウィンや文化・芸術の秋に因んで、作品展示会を開催しました。優秀と感じた作品に、患者さんに〇〇賞をつけてもらい、楽しい時間を過ごすことができました。また、「好きな言葉・座右の銘」を木の葉の用紙に記載し、紅葉する木に見立てて飾りました。座右の銘、好きな言葉を見ると、患者さんの思いや生きざままでも感じることができ、

ご家族とともに貴重な時間を過ごす機会となりました。

今年度より、毎月ピアノ演奏会を開催しています。童謡や歌謡曲、クラシックを聴き、穏やかな時間を過ごしています。ご家族と一緒にベッドで演奏会に参加される方もいます。歌詞カードを見ながら、大きな声を出して皆で楽しく歌います。

少しでも苦痛から解放され、穏やかな時間が過ごせるように、スタッフ一丸となって、支援しています。病棟紹介は病院ホームページに詳しく記載しております。緩和治療病棟での療養を希望される方がおられましたら、患者支援センターにご紹介をお願いいたします。



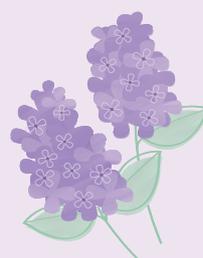
# 血液内科患者会「ライラックの会」再開へ

造血細胞移植コーディネーター 寺林 麻子

「ライラックの会」は、当院の血液内科患者さんやそのご家族が、抱えておられる様々な思いを参加者同士で語り合い、医師や看護師などと一緒に情報交換や治療の向上を図ることを目的として設立された“友の会”です。

コロナの感染拡大を受けて2020年から休止していましたが、いよいよ再開していくこととなりました。今年度はお試しとして、10月9日に約4年半ぶりのライラックの会を開催しました。準備期間が短く患者さんへの周知期間が限られていたこともあり、当日は2組のみの参加でしたが、同種移植後の患者さんと同種移植を控えた患者さん、及びそれぞれのご家族の間で濃密な情報交換が行なわれました。

次回は2月12日に開催し、来年度からは年間計画を立て本格始動していく予定です。患者さんの療養を支える大切な場となることを期待しています。



# 1月、2月の外来診療に関する医師不在日案内

## 1月

科名	医師名	不在日
小児科	津幡 眞一	23日(木)
整形外科	杉森 一仁	24日(金)
耳鼻いんこう科	大井祐太郎	31日(金)

## 2月

科名	医師名	不在日
小児科	津幡 眞一	26日(水)、27日(木)
	平井 宏子	10日(月)PM
整形外科	橋本 浩	21日(金)
内科	川原 順子	21日(金)
泌尿器科	長坂 康弘	25日(火)、26日(水)



※不在日には、代診を立てております。

## 患者支援センターからのお知らせ

### 年末年始休業のお知らせ

12月28日～1月5日は年末年始に伴い、休診となります。  
12月28日(土)午前のみ 電話予約はお受けいたします。

### 「第89回地域医療連携の会」

日時：令和7年1月29日(水) 午後7時から  
場所：富山電気ビルディング 5階 大ホール  
講演：◇「産婦人科の近未来」

新潟大学大学院 医歯学総合研究科 産婦人科  
教授 吉原 弘祐 先生



※みなさまの参加をお待ちしております。

編集後記

街中にイルミネーションが輝く季節になりました。我が家の子供たちには心をくすぐるものがあるようで、ピカピカと点滅する明かりを見かけるたびに指さし、「クリスマス!!」と興奮しています。

今年は1月1日に能登半島地震が発生し、県内も含め甚大な被害に見舞われました。復興に向けてのニュースが見られる一方、被災地域に再度自然災害が重なる状況に心が痛み、自然の厳しさを痛感します。

守るべき家族も増えた中、頻度の上がる自然災害に対しての備えを怠ることなく、再確認していく必要があるなど我が家の備えも見直していきたいです。

物価高や自然災害等暗いニュースが多い1年でしたが、来年は明るいニュースにあふれる1年になることを願いたいと思います。年の瀬も迫り、あわただしくなる時期ではありますが、皆様も健康に留意され、よいお年をお迎えください。

(社会福祉士 齊藤 沙依子)



紹介依頼など、下記までお問い合わせください。

**富山赤十字病院**  
**患者支援センター**

TEL : 076-433-2492 FAX : 076-433-2493

e-mail : byousinrenkei@toyama-med.jrc.or.jp

夜間・休日のお問い合わせは…TEL : 076-433-2222(代表)

Fax : 076-433-2410(夜間・休日のみ)